

まちかどトーク（牧野地区）議事要旨

日時：令和7年12月16日（火）19:00～20:40

場所：牧野公民館

参加者：60人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「みんなで考える地域交通」について総合交通課から説明の後、質疑応答

参加者

地域内の主要箇所にバス停を設置し、バス停と万葉線駅が繋がると便利である。

総合交通課

牧野地区では様々な年齢、家族構成の方が暮らしており、今は良くても、10～20年後に車の運転ができなくなると、自宅から主要箇所のバス停にもアクセスできなくなる可能性もある。牧野地域に合った方法を一緒に考えていきたい。

市長

交通事業者と一緒に市全体のバス網の充実について意見交換をしている。ドライバー不足などの課題もあるが、この状況を放置せず、市民の足を守り、移動手段を便利にしたい。

参加者

地域課題の解決のため、多機能自治組織で議論を進めている。住民から移動手段に対する要望は多いが、実際に利用する住民は少ないのでと考える。小勢地区では地域バス運行のため1世帯あたり毎年3,000円を負担しているとの説明であったが、負担は利用世帯のみなのか、全世帯なのか。

導入後の赤字も心配であり、地域の負担だけで運行を続けるのは難しいのではないか。財政面での支援を求める。

総合交通課

小勢地区は全世帯が負担している。地域負担については、導入時の是非を決める重要な要因となる一方、行政が全額補助で運行となると、住民が利用促進に取り組む意欲が妨げられることも懸念している。持続可能としていくためには、地域の実情に応じ、ある程度の負担は地域が担い、支え、育てていただくことが良いと考えている。検討に際しては、過度な負担とならないよう、国・県補助の活用も提案しているところ。今後、ご検討いただけるということであれば、その際にまた、ご相談いただきたい。

市長

地区負担ができるだけ少ないようにしてあげたいと思う一方、今ほどの説明のように全額負担することで利用促進が図られないのは困る。様々な制度を活用しながら、地域にとって、一番良い方法を見つけていきたい。

参加者

射水市は「きときとバス」（コミュニティバス）を運行しており、かつては牧野地区にも 11 か所のバス停が存在したが、現在は 4 か所に減少した。東西に運行するルートがあれば、中曾根周辺の住民が使いやすくなる。既存の「きときとバス」を上手く活用すれば、新たなバスを運行する必要はないと思うので、考慮いただきたい。

総合交通課

南北に走っている既存のバス路線をどのように補完するのが牧野地区に合うのか、また一緒に考えていくべきだと思う。

参加者

射水市が運行している「のるーと」（電話予約制の AI オンデマンドバス）の停留所が、牧野地区の 2 か所のスーパーの前にある。牧野地区内に「のるーと」の停留所が増えると地区内の移動がカバーできると思う。

牧野地区と他の地域を繋ぐバス路線が無いため、市で検討してほしい。

総合交通課

射水市とは普段より情報を共有しており、今後の参考としたい。

参加者

地域バスのドライバーは大型免許所有者に限られるのか。普通免許で運転できる小型バスもあると聞く。また、地域バス導入時に運行車両を市から提供してもらえるのか。

総合交通課

市では、初期導入時の支援として、普通免許で運転できる助手席含め 10 人乗りの車両を無償貸与している。また、車両については、高齢者利用を想定し、手摺りや電動ステップをつけたバリアフリー対応のものを準備している。ドライバーについては、道路運送法で定める自家用有償旅客運送制度に基づく運行なので、2 種免許は必須条件ではない。国土交通省が定める講習を受講すれば、運転が可能となる。

参加者

25 年ほど前に万葉線廃線の問題が起り、署名活動を行った。牧野地区で万葉線が運行する区間は数百メートルだけだが、大切な公共交通である。

以前は「のるーと」に牧野地区と小杉・大門地区を繋ぐルートがあった。市が助成を行い、以前のルートを確保してほしい。

万葉線駅まで 2~3 キロの距離があり、高岡市民病院に行きたくても交通手段が無い。

市長

万葉線の駅に接続する地域バスがあれば良いと思う。万葉線は骨格となる公共交通であり、そこに繋がる役割を担うのが地域バスである。

総合交通課

どのように地域の足を支えていくべきか一緒に考えていきたい。

参加者

地域バスを導入する場合、ドライバー不足が心配。ボランティアを担う人も高齢者が多い。先行地区では、どのようにドライバーを確保しているのか。

総合交通課

中田地区では、主に民生委員や自治会長経験者がドライバーを担っている。木津地区では、地区で募集し、応じていただいた地区住民が担っている。持続可能な仕組みとする

ため、小中学校のPTA役員や児童クラブ連合会など、若い子育て世代にも呼び掛けているところであり、昨年度と今年度で、中田地区と木津地区では30～40代でドライバー資格を取得した住民もいる。

ドライバーの登録数が増えていくことで個人の負担感は分散できると考えており、引き続き地区と連携して確保に努めてまいりたい。

参加者

以前の「きときとバス」は牧野地区の交通の「枝」となっていた。射水市からの転入者が多いため、新湊地区への移動が多い。あいの風とやま鉄道を利用する場合も、越中大門駅や小杉駅を利用している。「きときとバス」のルートの復活を射水市に働きかけてほしい。

総合交通課

ルート変更については、射水市から、利用実績に基づいたものと伺っている。射水市が運行主体であり、射水市と牧野地区のニーズと調整しながら検討する必要があると考える。

市長

今後、一步進んだ対応ができるのか考えていきたい。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

牧野地区は昭和17年に高岡市に転入した。戦後は新湊地区からの転入者が多く、近年はエバーグリーン中曾根の宅地増設により人口が増加した。また、外国籍住民も増えている。新湊色が強い地域だが、牧野大橋の開通により、高岡市である意識が強まった。多機能地域自治を導入し、様々な課題に対して市の中でも先進的に取り組みを進めてきた。

活動拠点となる地域交流センターの完成が12月に予定されているが、市立公民館は地元負担で運営を継続する。しかし、市から固定資産税を課税すると言われているため、経済面と人的支援をお願いしたい。

牧野地区は、過去に新湊小学校に通学可能だった事もあり、射水市の生活に近い。射水市との協力は必須であり、牧野地区と新湊地区の協力を促す施策を実施してほしい。

市長

生活圏で射水市と重なる部分があり、射水市との協力は努力していきたい。多機能地域自治や多文化共生の取り組みは、高岡市の将来像として理想的だと感じる。

参加者

牧野地区の住民は、近隣の射水市の火葬場を使用する人が多い。射水市民の火葬料は25,000円だが、牧野地区の住民が使用した場合は75,000円であるため、公平になるよう是正してほしい。

参加者

牧野地区の5.8%は外国籍住民である。ムスリム（イスラム教徒）の人口も多く、埋葬

方法は土葬である。今後、衛生問題等が課題となるのではないか。

参加者

母子保健推進員として、7か月児の家庭訪問を行っている。母親達から、年度途中に牧野地区の保育園に入園できないという意見をよく聞く。途中入園できても、牧野地区外の保育園であり、入園の決定も1か月前にならないとわからないため、育休からの復帰に不安を抱えておられる。射水市は4月から入園申請を行い、途中入園もできると聞いた。若い人が住みやすい環境を作つてほしい。

参加者

4月入園の申し込みは9~10月に行い、2月に結果がわかるが、遅いので早く結果を知らせるようにしてほしい。

参加者

求人募集する保育士の賃金が低い。保育士不足の原因だと思うので、保育士の給与、環境改善を検討してほしい。

新高岡駅周辺に駐車場が少ないため、屋内駐車場を整備してほしい。

市長

駐車場用地の確保は難しい問題。同じ意見をよく伺つており、何ができるのか考えたい。

保育士の給与は調査し、できる事は改善したい。

参加者

空き家が多いので、対策はないか。

市長

移住者が空き家に住む場合、補助金を交付している。

参加者

福祉、こども施策に対する住民の要望が多い。男性も参加できる福祉の取組が必要。小中一貫校を設立し、こども達にとって良い環境を作つてほしい。こどもが多いため学童保育を利用しているのは小学校1・2年生の半分程度である。こどもの居場所作りは牧野地区でも取り組んでいるが、働きながら安心して子育てできる一貫した施策が必要である。

市長

住みたいまちにするために、子育て、福祉、公共交通など、人に手厚い施策を実施したい。牧野地区は希望があるので、盛り上げていきたい。